

ドライバーオリエンテッドなコックピットと、爽快・安心の助手席。 機能と上質を徹底的に高めたフロント席まわり。



運転に集中できるコックピット空間を創出するとともに、爽快感と安心感を両立するインストルメントパネルのあり方を追求。そのうえで、目に入る部品の1つひとつ、手に触れる素材の隅々にまで心を配り、コンパクトカーの新たな基準を指し示す高いクオリティーを実現しました。

爽快な視界と安心感のあるインパネ造形

インストルメントパネルをクリーンな面で造形するとともに、ワイパーの停止位置をフロントフードより下に設定。さらに、ドアミラーの取り付け位置変更によりフロントクォーターウィンドウの樹脂部品を廃止するなど、視覚的なノイズを最小化することですっきりとした視界を実現しました。



高品位な加飾づくり

加飾は、形状を吟味するとともに質を高めることを追求しました。助手席インパネミドル部にはソフトパッドパネル*を採用。ステッチ表現を施し手縫いのようなリアルさで革の風合いを再現し、ロアパネルのシルバー加飾で精悍に引き締めました。また、ピアノブラック塗装と高輝度シルバー塗装を要所に用いることで、造形の中で1つひとつの加飾が高品位に主張するデザインとしています。



質感と操作性を追求した操作レバー

それぞれのタイプに適した操作性とデザインを追求。中でも、Hondaの量産車として初めてSBW(シフト・バイ・ワイヤ)を採用したHYBRIDには、先進的な流麗デザインの専用シフトレバーを装備しました。スイッチ感覚の軽い操作でシフトチェンジが行えます。



※タイプ別設定。